

## 若手獣医師のHPAI発生時危機管理対応力 向上の取組

中丹家畜保健衛生所

○吉崎康二郎 黒田鼓 渡邊昌英

【はじめに】京都府では、高病原性鳥インフルエンザ府内発生の経験から全庁的な危機管理体制のもと各種マニュアルを策定するとともに農場での実地訓練に取り組んできた。発生から12年が経過し、未経験職員の割合が増加。また、本年、京都府高病原性鳥インフルエンザ等対策マニュアル（以下マニュアル）が改正されたことから、経験継承と円滑な情報伝達体制の確認を目的とした訓練を実施。【方法】若手獣医師職員を対象に、府内発生当時の畜産課長の講演とともにロールプレイング形式の机上演習を実施。また、農場での実地訓練に合わせ、採卵鶏農場での発生を想定し、家畜保健衛生所と関係機関や農場と、マニュアルに則した情報伝達の訓練を実施。【結果】若手獣医師職員のアンケートでは、「講演では緊急時の迅速、適確な対応の重要性、日常業務の大切さなどを再確認できた。」「机上演習では、発生時には防疫指針やマニュアル等を統合的に運用する必要があることを理解した」など経験継承の成果を確認。情報伝達訓練では、農場関係者から「防疫対策のさらなる強化を改めて農場内の管理者に周知することができた」との評価。【まとめ】過去の経験を引き継ぎ、また、関係機関との円滑な情報伝達等を維持するためには、継続した取組みが重要と考える。